

知識や技能を活用する力を育成するために ～授業改善へのアプローチ～

◆ ◆ ◆ 中学校国語科 ◆ ◆ ◆

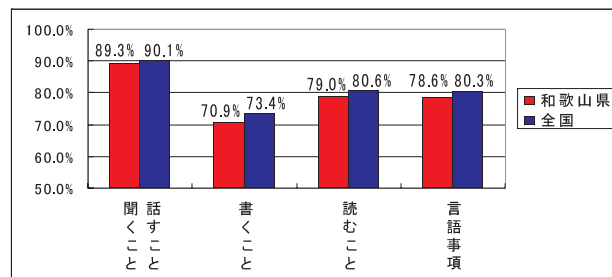


結果概要

■国語A

(主として「知識」に関する問題)

- ◇本県の中学第3学年の平均正答率は80.3% (全国平均 81.6%) です。
- ◇相当数の生徒が今回出題している学習内容を概ね身に付けていると考えられます。



【書くこと】

- ◆手紙の「後付け」の適切な書き方を選択する問題は、正答率が50%台です。
- ◆折れ線グラフから必要な情報を読み取って記述する問題は、正答率が70%以下です。

【読むこと】

- ◆情景描写や比喻に関する適切な説明を選択する問題は、正答率が70%を若干下回っています。

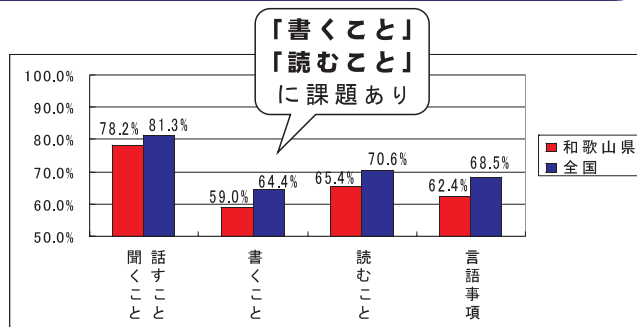
【言語事項】

- ◆漢字を書く設問の正答率は約55%~70%、読む設問の正答率は20%以下のものもあります。文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題があります。

■国語B

(主として「活用」に関する問題)

- ◆本県の中学第3学年の平均正答率は67.0% (全国平均72.0%) です。
- ◆知識・技能を活用する力に課題があります。
- ◆「書くこと」「読むこと」に課題があります。
- ◆記述式問題の平均無解答率(無答率)は16.3% (全国平均10.7%) です。



【書くこと】

- ◆ロボットと共存する未来社会について、想像して自分の考えを書く設問の正答率は約70%、無解答率(無答率)は約15%です。情報を基に、根拠を明らかにしながら、自分の考えを書くことに課題があります。
- ◆「蜘蛛の糸」の内容や構成、表現上の特徴を踏まえ、「三」の場面の必要性について自分の考えを書く設問の正答率は70%以下、無解答率(無答率)は約15%です。文章の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書くことに課題があります。
- ◆3枚の広告カードを比較して、その相違点を説明する問題の正答率は30%台、無解答率(無答率)は約19%です。複数の資料を比較し、共通点や相違点を整理したうえで、伝えたい事柄や考えを明確にして書くことに課題があります。

【読むこと】

- ◆「蜘蛛の糸」の一場面を取り出し、朗読の工夫の仕方を選択する問題の正答率は60%台です。文章の展開や心情の変化に着目して、工夫しながら朗読することに課題があります。
- ◆3枚の広告カードの特徴を説明したものの適切な組み合わせを選択する問題の正答率は70%以下です。表現の仕方の特徴をとらえることに課題があります。
- ◆広告カードを比較して、共通に書かれている情報を読み取る設問については、正答率が60%台と40%台です。必要な情報を集めて整理することに課題があります。

◇…相当数の生徒ができていない点 ◆…課題のある点



指導改善のポイントと具体的アプローチ

指導改善のポイント

■国語A

①手紙の後付けの書き方についての理解 (2 三)

○基礎的・基本的な学習内容の確実な習得
手紙の書き方などの基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導が必要です。

②文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすること (8 - 2・3、二 2・3)

○漢字の読み書きについての指導の工夫
日常生活で使用頻度が低いものを意図的に取りあげるなど、漢字の正しい読み書きについての指導の工夫が必要です。

■国語B

知識や技能を活用する力、記述式問題に課題があります！

①情報を基に、根拠を明らかにしながら自分の考えを書くこと (1 三)

○文章を的確に読みとり、活用する言語活動の工夫

- ・社会生活に役立つ読む能力を身に付けるために、様々な文章の内容や構成、表現に注意しながら、的確に読み取るよう指導する必要があります。
- ・自分の表現に役立てるために情報を活用して読むことも重視していくことが大切です。

②文章の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書くこと (2 三)

③複数の資料を比較して、共通して書かれている情報を読み取ること (3 二)

○情報を的確に整理して書く言語活動の充実

- ・図やグラフなどを含めた多様な素材を学習に用いることを重視することが必要です。
- ・複数の資料を比較して、その共通点や相違点を整理しながら自分の考えを書きまとめる言語活動の充実が大切です。

④複数の資料から得た情報を整理して、伝えたい事柄や考えを明確にして書くこと (3 三)

⑤文章の展開や心情に着目して、工夫しながら朗読すること (2 二)

○文学的文章の描写や表現に注意して内容をとらえる言語活動の充実

本文中の表現などに着目して、人物や情景を思い浮かべながら読み味わうように指導を工夫することが大切です。

() は問題の番号を表します。

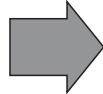
課題が明らかになった知識や技能を活用する力

- 情報を読み取り、根拠を明らかにして自分の考えを書く力
- 文章を的確に読み取り、読み取ったことを踏まえて自分の考えを書く力
- 複数の資料から得た情報を整理して、伝えたい事柄や考えを明確にして書く力

これらは、PISA型「読解力」と大きく重なると考え、
 本県では、PISA型「読解力」育成のための取組を進めています。
 年度末に「PISA型読解力向上のための実践指導資料集」（仮称）を各学校に配布する予定です。

◆ ◆ PISA型「読解力」育成のための指導改善の視点 ◆ ◆

- ① 教科書教材の精読
- ② 教師主導の一斉授業
- ③ 教師と子どもの一問一答
- ④ 憶測による心情や内容の理解
- ⑤ 教材の無批判な受容
- ⑥ 体験と感想を基にした表現



- ① 多様な文字資料の活用
- ② 子ども主導の協同学習
- ③ 子ども同士の討論
- ④ 推論による表現意図の解釈
- ⑤ 教材の評価と批判
- ⑥ 読解を根拠にした表現

国立教育政策研究所 有元秀文総括研究官による

具体的アプローチ1 発問の精選を！

- 子どもの興味・関心を引きつける問い
- 教材の本質の理解にせまる問い
- 教材文に必ず根拠がある問い
- 何を答えたらよいかだれにもわかる明確な問い
- 全体を読まなければ答えられない大づかみな問い
- 個性や創造性を発揮した多様な答えを求める問い

《 発問の具体例 》（2学年「走れメロス」を扱う場合）

発問1 「メロスが王と約束した時刻に遅れた理由を3つ答えなさい。」

発問2 「なぜ王は最後にメロスを許し、『仲間に入れてほしい』と頼んだのですか。」

発問3 「あなたがメロスだったら、妹の結婚式のために友だちを人質にしますか、それともしませんか。また、それはなぜですか。」

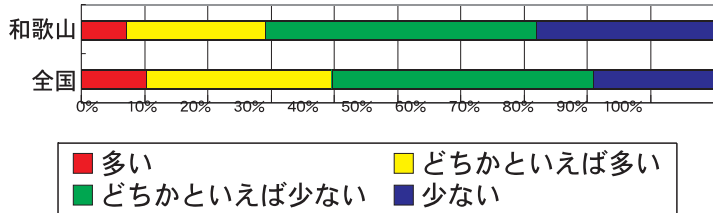
【情報の取り出し】

【解釈】

【熟考・評価】

具体的アプローチ2 話し合い活動の充実、授業形態の工夫を！

国語の授業では、友達と話し合ったりして意見を交換する場面が多いですか



* [生徒質問紙]「国語の授業で、友だちと話し合ったりして意見を交換する場面が多いですか」に、本県3学年生徒70.7%（全国60.3%）が、「あまりない」「全くない」と答えています。

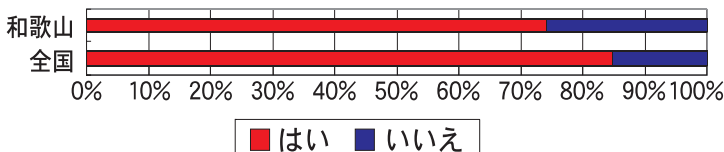
* この結果については、本県3学年生徒の「根拠を明らかにして自分の考えを表現する力」に課題があることと関連があると考えられます。

* 根拠を明らかにして意見交換をする「話し合い活動の充実」、話し合いが活発になされるための「授業形態の工夫」が求められます。

* 個別学習（ワークシートの活用等） → グループ学習（話し合い） → 全体の話し合い

具体的アプローチ3 読書活動の充実を！

第3学年の生徒に対して「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか



* [学校質問紙]「第3学年の生徒に対して、『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けていますか」に、本県中学校の25.9%（全国15.2%）が、「いいえ」と答えています。

* この設問については、国語の学力との相関関係があるとの分析結果が出ています。

* 日常生活における読書活動につながる意図的・計画的な「読むこと」の学習を通して、進んで読書に親しむ態度を育てることが大切です。